

松山大学法学部学術講演会

演題：「全国政治」が始動するとき—明治維新後の「中央」-「地方」関係を考える

講師：前田 亮介 先生（北海道大学大学院法学研究科・准教授）

講演概要

近代日本において、いつ「全国政治」が成立したのかという問いを正面から掲げ、1870年代から80年代にかけての自由民権運動の高まりの時期と、日露戦争を経て国民統合が進んだ20世紀初頭の時期のはざまにあたる、帝国議会が開設された1890年代に注目し、主として地方政策を検討対象として分析した名著『全国政治の始動—帝国議会開設後の明治国家』でサントリー学芸賞を受賞した前田亮介先生をお迎えしたい。愛媛において、地方政治に引き付けて日本近代史を再検討する知的営みは、スリリングであると同時に、今後の日本政治の展望を描く糧ともなるであろう。学生・教職員はもちろんのこと、広く一般市民にも参加を呼びかけたい。

コーディネーター

松山大学法学部教授 遠藤 泰弘



講師：前田 亮介 先生の略歴

1985年 東京都生まれ

東京大学文学部卒業、2013年東京大学大学院博士課程修了、2014年より現職

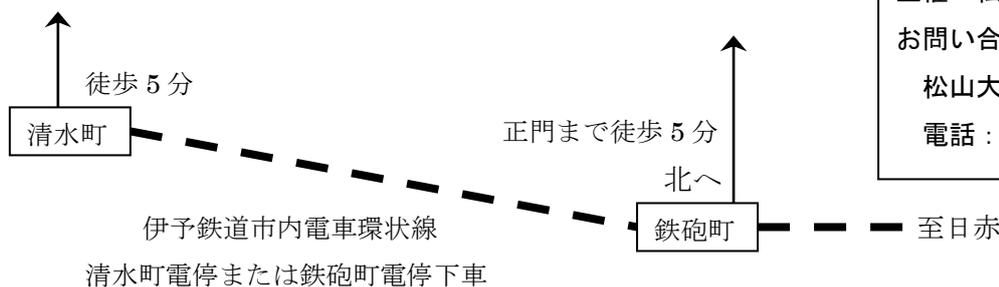
著書—『全国政治の始動—帝国議会開設後の明治国家—』（東京大学出版会・サントリー学芸賞受賞）、『戦後日本の学知と想像力—〈政治学を読み破った〉先に』（吉田書店）、他。

日時：2022年 7月 4日(月)

18:00~19:30

入場無料・参加自由

場所：松山大学 2号館 223番教室



主催 松山大学法学部

お問い合わせ先

松山大学教務課 法学部担当

電話：089-926-7137（直通）